

### ～子宮がん検診受けていますか？～

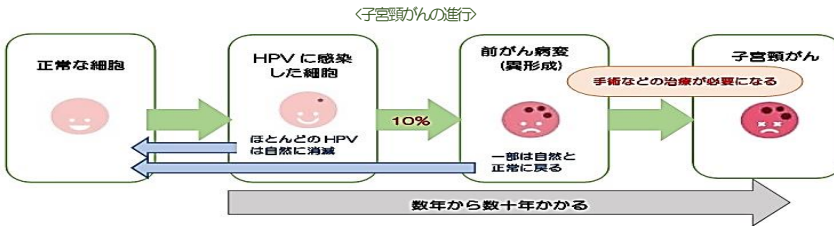


出典 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービス

子宮頸がんと診断される人は年間約 1.1 万人で、約 2,900 人が死亡しています。近年は診断者数、死亡者数ともにやや増加傾向で、特に若い世代での患者数の増加がみられ、30 歳代までにがんの治療で子宮を失う人が、年間 1,000 人とされています。子宮がん検診は 20 歳以上を対象に実施していますが、検診受診率は欧米が 70% 以上に対し、日本は 35.8% (2019 年国民生活栄養基礎調査) と低く、特に 20 歳代の受診率は 20% 台と低い状況です。

### 子宮頸がんとは…

子宮は女性の骨盤内にある鶏卵ほどの大きさの臓器です。子宮は下部の筒状の子宮頸部と上部の袋状の体部に分けられ、子宮頸部にできる悪性腫瘍を「子宮頸がん」と言い、子宮がんの約 7 割を占めています。子宮頸がんの原因の 95% 以上は、ヒトパピローマウイルス (HPV) というウイルスに感染することです。このウイルスはありふれたウイルスで男女を問わず多くの人が感染し 90% の人は免疫により自然に排除されますが、残り 10% の女性が前がん病変を発生し、数年以上かけて子宮頸がんに行進します。



#### ＜子宮頸がんの症状＞

子宮頸がんの早期ではほとんど症状はありませんが、進行すると次のような症状が現れることがあります。

- ・不正出血
- ・腹痛や腰痛
- ・異常なおりもの(臭いや色)

#### ＜子宮頸がんの治療＞

子宮頸がんの治療は、病気の進行度や持病の有無等により、手術療法、化学療法、放射線療法を単独又は組み合わせて行います。

### 子宮がん検診を受けましょう

子宮がん検診は、20 歳になったら受けることができます。子宮頸がんは、早期のうちに発見し治療すると治癒率も高く、子宮を温存できる可能性もあります。定期的に必ず受けましょう。



参考：厚生労働省HP、国立がん研究センターHP、日本対がん協会HP、日本産婦人科学会HP

福利課健康支援係  
電話：011-231-4111(内線：35-380)

### HPV ワクチンの現状

2013 年に HPV ワクチン接種後に持続的な疼痛などの症状が生じたことが報告され、定期接種の積極的な勧奨が中止されていましたが、それらの症状とワクチン接種との関連が認められないこと、ワクチン接種により前がん病変を予防する効果や子宮頸がんそのものを予防することが国内外の研究・調査で示され、2022 年 4 月から積極的な勧奨が再開されました。

#### ＜公費で受けられる HPV ワクチン＞

現在日本では、公費で受けられる HPV ワクチンは 2 種類あり、それぞれ間隔をあけて、同じワクチンを 3 回接種します。

① 2 価ワクチン(サーバリックス)

子宮頸がんの主な原因となる HPV16 型と 18 型に対するワクチン

② 4 価ワクチン(ガーダシル)

HPV16 型と 18 型に加え、尖圭コンジローマ(HPV6 型、11 型が原因となるウイルス性の性感染症)に対するワクチン

\*①②に加え令和 5 年度からシルガード 9(ガーダシルに加え、HPV の 5 つの型を含んだワクチン)が公費負担の対象となります。